

笑顔のために



カトゥー族ツアーで伝統舞踊を楽しむ参加者の様子

ベトナム国ナムザン郡少数民族における 住民主体による地域活性化のための 人材育成事業（FIDR）

私は公益財団法人国際開発救援財団（FIDR: ファイダー）のベトナム事務所に駐在し、この8月にJICA 草の根技術協力事業に採択された「ナムザン郡少数民族地域における地域活性化のための人材育成事業」のプロジェクト・マネージャーをしております。私たちの団体は1990年に発足した民間の国際協力団体で、1991年にベトナムへの支援活動を開始し、1998年に中部ダナン市に事務所を設立しました。現在は、本事業のほか、クアンナム省、トゥアティエンフエ省とコントゥム省で、農業を通じた食糧生産支援事業及び子どもの栄養改善事業等の地域開発事業を実施しています。

この事業は、クアンナム省ナムザン郡における少数民族の包括的な地域振興を進めるための人材育成及び地域資源の開発と有効活用を目的としています。私たちはこれまで、この地域の生活向上や様々な事業を実施してきました。中部山岳少数民族カトゥー族の伝統織物「カトゥー織」を活用した「ベトナム少数民族手芸支援」を郡内の一つの村で開始したのが8年前。この事業では、同省で初めての「少数民族女性による織物組合」が立ち上がりました。そして、その成果をきっかけとしてはじめた、伝統文化と豊かな自然を活かした観光産業による地域おこし、「少数民族地域活性化のための観光開発事業」に取り組んでから早4年。今回は、それらの総合的な成果を地域開発モデルとして郡全域や他郡にも拡げていく

ことを目的としています。

ここで、少しその地域とそこに住む人々についてご紹介しましょう。

ベトナムの人口の約87%はキン族と呼ばれている民族ですが、残りの約13%は53もの少数民族が占めており、同省ナムザン郡は、全人口の8割以上がカトゥー族です。「森の民」として知られるカトゥー族はベトナム中部のラオス国沿いの山深い森の中で長い間暮してきました。独自の伝統文化や言葉を持ち、豊かな森の恵みを享受しながら、焼畑農業を営み、採集・狩猟による半自給自足の生活を送っています。そして自分たちには、「ユニークな独自の文化と豊かな自然、そして仲間意識が強い」という誇りを持ち、一人だけよい思いをすることとを善としない風潮が今もお残っています。

「カルーカ！」この言葉はカトゥー語で「お元気ですか？」という意味です。ベトナムに来てから早10年…。情けないことに、未だにベトナム語もカトゥー語もマスターしておらず、毎週のように会う彼らと通じるのはこの挨拶（だけ）で、後は笑顔でごまかしながら活動をしています。少数民族の人々と私たちは生活様式、価値観、思考、行動など等、多くのことが違います。この10年、毎日がベトナムという文化価値と、少数民族という文化価値の中で異文化体験の連続でした。少数民族の人々が生まれて初めて乗ったエスカレーターやエレベーター、そして飛行機に至るまで、彼らにとっての

「初」を共に経験し、一方で彼らの居住地域では、今後は私たちが数えきれない程の「初」を体験する（特に食べ物ですね）等、まさにお互いが理解し合いながらここまで来ました。そんなカトゥー族が最も輝いたのは、「宝さがし」という手法による観光開発事業でした。地域にある宝、つまり自然環境や伝統文化社会、人や技術など自分たちが大切にしているものや特別なものを探し、それに磨きをかけて、お客様に見ていただき、体験していただくことを通じて、地元の多彩な資源を発掘、活用、発展させていく。それらを地域住民が主導する持続的な観光開発事業を実施したところ、今では日本人をはじめ、フランス人、アメリカ人等ベトナム国外からのお客様も訪問してくれるようになってきました。地域の人々が地元の資源だけではなく、自分自身も輝くことで、地域の発展を進められるように、彼らが中心となって他の地域にその体験を繋げていくための小さなお手伝いができればよいな、と思っています。ぜひ、皆様もお越しください。カトゥー族とともに、お待ちしております♪

●関連情報は以下のリンクからご覧ください。
※カトゥー族の村へはダナンから車で約2時間かかります。

FIDR ウェブページ：

<http://www.fidr.or.jp/about/about.html>

カトゥー族ツーリズム紹介ページ

<http://cotucbt.jimdo.com/>

●大槻 子

（おおつきのぶこ）

東京農業大学卒業後、国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊隊員や造園緑化業、国際連合開発計画（UNDP）の農業専門家を経て、2004年から公益財団法人「国際開発救援財団（FIDR）」ベトナム事務所代表としてダナンに駐在。

